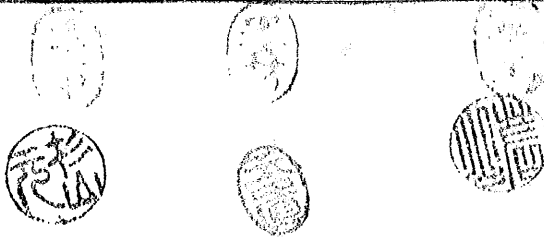


203



2153



第七師團北甲第三〇三號

石狩陸軍無線電信所十月分通信狀況送付ノ件

大正十二年十月十二日

第七師團司令部

陸軍省御中

首題ノ通信狀況別紙及送付候也

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

九四三號

軍事部



陸軍

2154

大正十二年十月分

石狩陸軍無線電信所通信月報

第七師團司令部

月報送付区分

陸軍省
 参謀本部
 陸軍無線電信調査委員會
 薩哈噠派遣軍司令部
 陸軍運輸部
 工兵監部
 第八師團司令部
 第十一師團司令部
 電信第一第二聯隊
 金澤陸軍無線電信所
 陸軍運輸部臨時小樽出張所
 支那駐屯軍司令部
 関東戒嚴司令部

各各

送不

陸軍省陸軍無線電信所通信月報

第一、一般ノ状況

震災に伴裁最關係電報取扱に關シテハ先般規定ヲ設ケテ前後處置
進捗ト共ニ電報内容平常ト特異ト點ヲ認メテ空電亦漸次減少シテ通信
概シテ圓滿確實ニ實施シ得ルニ至ル

八月以來欠員タリシ通信手ハ電信兵卒ヲ以テ補充セラレ前半期ニ
於ケル諸行事ハ認可予算ヲ以テ不足ナク運轉シ得タリ

第二、通信ノ状況

通信緩和シ益々交信時間ニ餘裕ヲ見ルニ至リ東京方面落着き軍
用報ハ有線ヲ經由セシムス總テ中野無線ヲ經由送受ス又公衆電報元
相当多數ニシテ兩者ヲ合シ電報數ハ七七通(通平均五七字)ニ達ス

一 空界ノ状況 (附表第二)

空電ハ概シテ下旬迄テ多ク龍巻ニ帯線地絡ヲ要シテトニ因其他受信ヲ不能ナラシメタルトアリシモ概シテ前月比シテ減少ヲ見ル

混信ハ自没ヨリ夜半ニ至間於テ太泊宗谷殊ニ落石無線ノ妨害ヲ受ケ又船舶相互間混信モ相当甚シキ場合アリテ往々公衆通信一時不能ニ陥ルコト甚ナカラス

二 軍用通信

中野要港無線及札幌局ニ至対向所トシテ何等滞ナク関東地方及薩哈囉軍ト内地間ノ通信連絡位ニ取扱電報数ハ一九通(一平均字数)ニシテ九月比シテ一九通(一平均字数)ニ減(減少)シ從テ電報ハ甚シク停滯セテ疎通良好ナリ (附表第二第三)

對中野無線

取扱電報三五二通（二通平均字数七六字）ニテ九月比シニ九通（二通平均二一字数）減少ス

交信時間八日四回四時間（午前三時各時間）ナリシカ中野無線ハ無

線調査委員會ニ於ケル研究實驗ノ關係上晝間通信時間ノ制限ヲ受

午月二十八日以降一旦二回二時間三分（午前七時ヨリ時間及午後五時ヨリ時間三分）ニ改正セラル

尚電報数多キ場合要スレハ午後九時ヨリ十時迄間ヲ使用ス

中野ニ於ケル当所感微弱且空電混信比較的多ク受信困難ニシ

テ了解時間ヲ要シ時ニ應答ナキコトアリテ九月ニ於テ是信狀況ト大

差ナク一通交信約十三分ヲ要シタリ（所表第六）

之對亞港無線

取扱電報、軍用報五八六通、外北樺太方面特殊通信連絡公衆報ヲ
合シ六〇ニ通（一通平均六一字）ナリ

交信状況、空電減少ト共ニ良好トナリ一通ノ所要交信時間約八分
リ
南部無線、近來感低ク音色濁リ且ツ千五百米規定電波長ニ對シ調
整確實ナラス午後八時交信、落石無線、特種波長火花八百米混信ノ
タメ受信時ニ至難ナルトアリシモ本月末送信調整ヲ行ヒタル結果
混信ハ除去セラレタリ又北部無線ハ下旬迄テ交流機ヲ南部無線ハ中
旬迄テ電線ヲ加修タメ兩三日通信ヲ休止セシモ其間当所トノ交信
ハ休止スルコトナク各交代シテ之ニ當レリ

子對船舶無線

軍用報花咲丸第十八野丸代志丸貴船丸金鷲丸栗橋丸無線ト間

ニ六通ヲ取扱フ

花咲丸無線ハ時々故障ヲ生シ通信不能トナリシモ其入渠中位加
修及調整ヲ行ヒ火花路ノ摺合セ等ハ当所工場ニテ行ヒタル結果本
月下旬航行ノ際ハ田滑ニ通信シ得ルニ至レリ

三、公衆通信(附表第七)

取扱電報八四八通(一通平均四九字)通信船舶數百隻ヲ超テ通信多

ク約百三十三時間(電報送受以外ノ連絡)ヲ使用セリ

北樺太方面特殊通信連絡トシテ亞港無線ト間ニ六通ヲ取扱フ

軍用外官報ハ中野無線ヨリ送來セシモノ一通ヲ取扱ヒタルノミ

第三、機材ニ関スル事項

一三日短波受信機空中線捲線燒損コイルの一部捲替加修シ從來ト何等異所ナク良好ナリ

二十四日第二号電弧發振機チャンバー内壁炭素換挿入口下部捲替自
然衰損シ冷却水シニ日冷却水消還不良為銅極端変形セ
シテ直ケ加修又交換シ通信支障無結果良好ナリ

二十八日託送用有線札幌局内電信機故障ノ多不通トナリシモ一時間早
分ニテ復旧セリ

四本月中稼働使用電力三九五七〇キロワットニテ各機使用時間左ノ如シ

第一号五馬力 三。時。九分 直流用十馬力 四五。時。一分

第二号同 三八。五四分 交流用十馬力 一八六。一分

直流用五馬力 三六。時。四分 揚水用五馬力 五。時。三分 作業用二馬力 一四。時。二五分

第四新規定又ハ協定セシ事項

一 我軍關係發送電報取扱

ハ 聯送電報料金支拂請求手續

(十月一日関東戒嚴司令部交通課長通電)

(一) 関東戒嚴司令官隷下部隊ヨリ奈信ニタル聯送電報料金ニ関シテハ
陸軍省電信取扱所ハ電報料金調書ヲ作製シテ之ヲ逓信省ニ送
付同省ヨリ関東戒嚴司令部(又ハ其事務引継官衙)ニ料金支拂ヲ請

求ス

(二) 石狩又ハ金澤陸軍無線電信所ヨリ中野陸軍無線電信所ヲ經由シテ
畿地域内ニ傳送セシ引續キ逓信省線ニ入リタル聯送電報料金関
シテハ石狩又ハ金澤陸軍無線電信所電報料金調書ヲ作製シテ之

ヲ逓信省ニ送付シ同省ヨリ各信部隊ノ料金ノ支拂ヲ請求ス

(三)前項依ル電報料金調書ノ送付ニ付毎月毎ニ取纏メ行フモノトス

(追)后得無線經由第二項聯送電報ニハ尔今局内記事ニ各信部隊名ヲ附記スルスト)

2.本手續ニ依電報料金調書作製上陸軍省電信取扱所長ト左ノ如ク協定ス

手續第二項聯送電報右得無線ヨリ第二項電報ハ陸軍省電信取扱所ヨリ各各信部隊名ヲ明記セル件名表ヲ旬毎ニ取纏メ作

製上相互間ニ送致ス

3.手續送書各信部隊名ハ左ノ略号ヲ用フ

薩哈連電信隊 サガ 陸軍運輸部 ウン

海軍無線電信所

イシ

海軍電報

カイ

北樺太方面特殊通信連絡

ノ派遣軍ヨリ祭ル電報有線不通ノ臨時要港石狩間無線經由セシム
場合取扱ノ関シ薩哈噠電信隊長ノ左如ク通牒ス(内地ニテ發送サ
ル場合料金關
係上必
要アリ)

A 料金未納ノ電報ハ当所經由ノ般軍用報トシテ傳送シ其料金ハ
後拂トスルコト為之額表祭所名ハ某所軍用トシ臨時中継ノ関
スル局内記事ヲ附記セス

B 料金既納ノ電報ハ大正六年六月西祭第六一五号ニ依リ特殊通信連
絡公衆官報トシテ傳送ス為之額表祭所名ハ軍用ヲ付セス某所
トシ且ツ所要ノ局内記事ヲ附記スルコト

2. 内地陸軍部隊發電報有線不通為臨時當所亞港間無線之經由
 せしむルキ取扱之関シ札幌通信局長ニ在リ要旨ノ通牒協定ヲナス
 從來發受信人カ陸軍關係ナル故以テ當所着信ノ軍用報同
 様形式ニテ札幌局ヨリ傳送セルモ本電報ハ内容ノ如何ニ拘ラス特
 殊連絡通信ニ依ル一般公衆官報(大正十一年十月)下ニ取扱フニ至當
 トス尚本特殊連絡ニヨル電報ノ傳送ニ當リテハコリニナル符号ヲ
 冠シテ區別ス

三. 當所ヨリ運輸部臨時小樽出張所並ニ札幌電信局ト間ニ架設セル軍
 用電話機及官廳用電信機ノ維持ニ就テ
 札幌電信局内設備ノ電信機ニ對シ官廳用電話規程第二條
 依ル私設電信規則第三條ノ維持料金ハ札幌局ニ於テ從來徴

収残ナルヲ察見シ本年度ヨリ処分ヲ請求シ来リ

之当所及小樽ノ設備ノ電信電話機ノ線路及電池ノ如ク其維持ヲ
 逓信省ニ依託シ能ハス(札幌逓信局ニ對シ逓信局ノ指令アリ)然レ
 ニ故障ニ際シ其検査及應急處置ヲ迅速ナラシムルニ人員材料
 等ノ關係上寧ロ逓信側ニ依託スルヲ適當ト認メ逓信局長ト協定
 シ機能検査又ハ故障際ハ其都度所要經費ヲ当所ヨリ支拂フ
 ヲ以テ速カク所要人員及材料等ヲ提供スル旨予メ了解ヲ永メ
 置ケリ

四、震災特号通信詳報は出さ就テ

十七日関東武蔵司令部交通課長ヨリ左ノ電報アリ

震災特号上テ別ニ通信詳報ニ部三月毎ニ取纏メ電信第

一 聯隊長經由ニテ出アレ、内容ハ概テ月報ニ準テ特ニ貴所
活動ノ状況他部ト、協定取扱電報ノ詳細（一級官報ト軍用信
トニ分テ）將來ノ意見ヲモ附記セラレタシ

第五 雜件

一 電信第一聯隊第卅隊工兵等平高田喜巳太郎通信雇員ノ補充トシ
テ派遣シ十月四日到着セリ（九月二十日）
（西發三ノ變）

二 通信兵中本年十月陸軍省令第百六号ニ依リテ音除隊多左如ク交代セリ

テ音除隊等（~~隊~~）中隊 音交代等ニ到着 中隊
二昇平小川万平

三 本年度戰地派遣等（~~隊~~）自音間石川中尉等

二十三名末所

四 音岩越工兵大佐當所視察

附表第一

大正十二年十月空電混信狀況

日次時刻 正子前四時 前八時 正午 后四時 后八時



備考
 一、印空電ノ入ノ混信ヲ示ス
 二、各時刻ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 三、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 四、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 五、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 六、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 七、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 八、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 九、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十一、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十二、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十三、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十四、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十五、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十六、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十七、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十八、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 十九、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 二十、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 二十一、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 二十二、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 二十三、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス
 二十四、本表ノ信ノ対岸地ノ南緯度ノ線ノ受信困難ノ原因ヲ示ス

附表第三
十月中軍用電報取扱通数表

支隊	当所發信		当所着信		中継發信		中継着信		合計	一日平均通数	
	通数	字数	通数	字数	通数	字数	通数	字数			
豊後部	27	1959	36	237	80	5716	136	5495	544	3659.7	
同南部	5	400	1	61	36	3970	42	4431	42	4431	
中野	69	3420	33	3592	162	16451	88	7307	352	3677.0	
花咲丸			1	18					1	18	
小野丸	1	28	5	185			4	203	10	416	
代志丸							1	25	1	25	
貴船丸			1	133			1	147	2	380	
金鷄丸							1	48	1	48	
丸隈	36	895	39	425				75	1330	45	1818
栗橋丸							1	218	1	218	
計	138	6752	126	6641	278	2737	492	2963	1029	6808.3	
備考	一、先月比シニ通数最少一五通トス 二、一日最多取扱数六二通トス										

附表第三

大正十二年軍用電報種類等級表

備考	合計	氣象報				報所			報官		種類								
		計	急	普	計	急	普	計	急	通	中	野	北	際	具	他	通	計	
其他對向所ト小野九ノ志九貴取九金鷲九東橋九各無線ト 障礙報ハ北樺太豐亞線不通際兩局所向ニ係着也 本表中ハ海軍々用報大三通ヲ含ム	八六	一三	六三	九	二五	二九	四三一	二七	三四	通	中	野	北	際	具	他	通	計	
	五五九八	六五六	四六六	一九九	一九九	一九三八	一九三三	一八三三	二三八	通	中	野	北	際	具	他	通	計	
	三五二	五	九七		四五	五二	二五〇	一一	一九〇五六	通	中	野	北	際	具	他	通	計	
	二六七七	八六	六六七七		四六八四	一九九三	二〇〇〇七	九五	八	八	通	中	野	北	際	具	他	通	計
	七五	三五	三四		三	三一	八		四六三	通	中	野	北	際	具	他	通	計	
	一三二〇	一五〇	七〇七		五二	六五五	四六三		一四	八三八	通	中	野	北	際	具	他	通	計
	一六		一			一	一五		一三三	六五四	通	中	野	北	際	具	他	通	計
	一〇〇五		三四			三四	九七一		四〇	四七五〇	通	中	野	北	際	具	他	通	計
	一〇九	一四〇	一九五	九	七	一三	六九四	四〇	三〇七	四七五〇	通	中	野	北	際	具	他	通	計
	六五〇八	三〇九	一一四八四	一九九	六六六五	四六二〇	五〇五〇七	三〇七			通	中	野	北	際	具	他	通	計

附表第四

九月軍用電報種類表

考備	種類		種別	種別比較	種別比較	種別比較	種別比較
	急	普					
一、至急報中六障礙跡報ヲ含ム 二、本表九月對スル十月ノ増減ヲ示ス	四五九	七九九	一六	二三三	九〇九	一三五八	九月
	一一三	九〇七	一四〇	一九五	六九四	一〇二九	十月
	(三三七)	一〇六	二四	(三八)	(三一五)	(二二九)	増(減)
	三七	六三	九	一九	七二	一〇〇	九月
	一一	八八	一四	一九	六七	一〇〇	十月
	(二五)	二五	五	〇	(五)	〇	増(減)

附表第五

大正十一年
陸軍用電報經過時分表

考備	小最			大最			平均			陸軍 宇島 中野 又イオ 当所受信 札愧 搭 要
	計	転送	送束	計	転送	送束	計	転送	送束	
送束 送束 送束 送束	0、四三	0、三九	0、一四	一六、二〇	五、一四	一、〇六	六四、四	一、三一	五、二六	陸軍
当所受信時ヨリ 送信終了時迄	三、五九	〇、一〇	三、四九	一〇、二六	三、五〇	六、二六	六、三三	一、四八	四、四五	宇島
	〇、二二	〇、一九	〇、〇三	三、五〇	一四、五〇	八、〇〇	八、〇五	六、〇一	二、〇四	中野
	四、三八	三、一三	一、一五	一四、三八	二、〇九	三、一九	八、一八	六、〇一	二、一七	又イオ
	〇、〇二			一、〇二			〇、二二			当所受信
				ア、エ、ナ、リ	ハ、ニ、ホ、リ	ハ、ニ、ホ、リ	陸軍送束ヨリ多 字送束ヨリ多 多時間ヲ要セル ハ送信時ニ制限 アルヲナリ			搭 要

附表第六

大正十年九月對西澤無線所要交信時間調

備考	對野		對中		對野		比較區分	交信時	間	取扱電報數	通平均字數	通平均時間
	增	減	增	減	增	減						
無線ノ内ニハ特種連絡ニ依ル公衆報ノ分ヲモ含ム	十月	九月	十月	九月	十月	九月	一月合計	一日平均	一月合計	一日平均	一月合計	一日平均
	(減)	(減)	(減)	(減)	(減)	(減)	一〇〇二〇	三三二一	四八一	九七	一一分三〇	一一分三〇
	一四八五五	一八七四五	七三三五	八七二五	(二五〇)	七五二〇		二二六	三五二	七六	一一分四八	
	(三八五)	(一三五)	(〇三三)	(〇五五)	(二一九)	(二一九)						
	四四八	六一六	六〇二	五九二	(二一九)	(二一九)						
	九五四	一〇七三	六一	七二	(二一九)	(二一九)						
	六七	八三	六一	七二	(二一九)	(二一九)						
	九二四	一〇三〇	七四二	八五四	(二一九)	(二一九)						

附表第七

十月分公衆報取扱通数表

備考	合 計	北樺太 ヨル中 特種 連絡 信	中 継 信	同 著 信	当所 祭 信	區 分	
						通 数	字 数
前月比シ六七八通増ス 二日最多取扱通数四九通最少一二通トス	八四八	一六	五八六	八五	一六一	六、五二五	一日平均通数
	四一五一四	一〇〇九	三、四七三	二、五〇七			通平均通数
			二八				
			四九				

2174

附表第 次

十月中主要消耗品使用一覽表

木綿屑	酒精	真空球	炭素棒	通信日誌	同 件名表	同 中継紙	同 着信紙	軍用 頼信紙	品目	位單	員數	品目	位單	員數
匁	匁	個	本	〃	〃	〃	〃	枚	品目	位單	員數	品目	位單	員數
四五〇	一〇	一〇	二〇	三一	五〇	二〇〇	六〇〇	三〇〇	品目	位單	員數	品目	位單	員數
金剛砂	六コ 才少	ワセリン	作業用 手袋	晒木綿	タイ 毛油	接 触片	銅 標	ゴム 管	品目	位單	員數	品目	位單	員數
匁	卷	封	組	反	合	〃	個	尺	品目	位單	員數	品目	位單	員數
一〇〇	一	二 四	三	一 四	二 六	一〇	一	一 八	品目	位單	員數	品目	位單	員數
				稀硫酸	曹達	蒸溜水	布 釘	品目	品目	位單	員數	品目	位單	員數
				封匁	匁	合	枚	品目	品目	位單	員數	品目	位單	員數
				一〇	二〇	一五	一五	四	品目	位單	員數	品目	位單	員數